

学校訪問指定授業研究協議会（1年1組道徳）

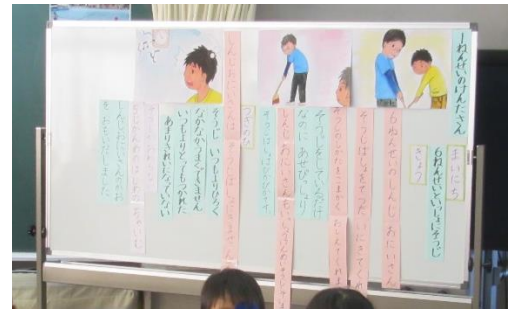
1年 題材「6ねんせいのおにいさん」自作教材

H29.10.30

1. 授業内容

1年生のけんたさんは、毎日6年生と一緒に掃除をしている。今日も、いつも手伝いに来てくれるしんじお兄さんが来てくれた。しんじお兄さんは、掃除の仕方を細かく教えてくれる。けんたさんはそうじをしているだけなのに、汗びっしょり。お兄さんの見ていないところで壁にもたれて休憩した。お兄さんはその間も一生懸命掃除をしている。

次の日、しんじお兄さんがそうじに来ない。掃除場所が広く感じる。いつものように掃除をするがうまくいかない。疲れるけれど、あまりきれいにならない。掃除が終わらないまま、授業の始まりのチャイムが鳴る……。けんたさんはお兄さんの顔を思い出した。



【資料提示（読み語り）】

2. 研究協議会より（Xチャートによる授業分析）

- ・ 読み語りは、児童に聞きやすく、大切な言葉は強調して読んでいてよかった。
- ・ 自分ごととして捉えやすい内容の資料だった。
- ・ 繰り返し発問が、キーワードを気にしすぎてしまい、一問一答形式になってしまった。もっとたくさんの意見を出させ、一番多い意見から繰り返しをしていくと価値が深まったと思う。
- ・ ありがとうの言葉が、児童の思いから出てくるのではなく、教師が出す形になってしまった。児童から出るように発問の工夫を工夫するとよかったとは思いますが、うれしい、楽しい、親切だなどは、1年生としての精一杯の感謝の思いがこもった表現だったのではないだろうか。
- ・ 役割演技では、帽子をかぶって行ったことにより、児童も教師も役割が分かりやすくてよかった。
- ・ 役割演技の時には、最初に教師と児童とで一度行ってから、全体で行うと、目的がはっきり分かってよい。
- ・ 役割演技のせりふの最初の部分を決めておくと、会話がもっとふくらみ、思いを表現できたのではないか。
- ・ 感謝のことばを伝えなくてはいけないことを押さえた後、役割演技をしたので、どの児童もありがとうということばを入れてしまった。「どんな言葉を使うと嬉しいかな」「どんな言葉で伝えようかな」などと、投げかけてから行くと、違う言葉もでてきたのではないか。



【発言する児童】



【児童の意見をまとめた板書】



【役割演技をする児童】

- ・ 「これから、そうじをがんばる」という児童の意見について、これも感謝の気持ちの表れであると考えて、教師が「ありがとう」につなげられるとよかった。
- ・ 教師が「すごくいいことを言ってくれたね」などと褒めたり、「いいですか」「いいです」と受け答えたりする場面があったが、道徳の時は教師の価値観を教えないので、言わない方がよい。自分なりの価値観を見つけていくことが大切。児童の道徳的価値を大切にしたい。



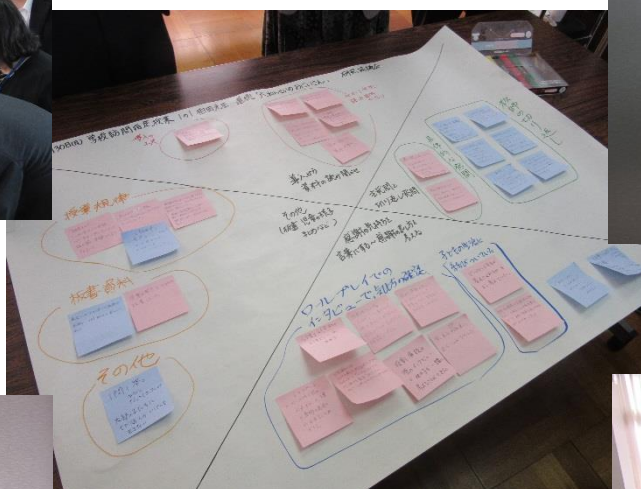
【代表児童による役割演技】

3. 指導講評 海部地方教育事務協議会指導員 後藤 義広 先生より

- ・ すべてのことを「感謝」につなげたいという思いが強すぎ、そこにたどり着こうと気にしすぎた。
- ・ 「ありがとう」の言葉がなかなか出なかった理由としては、6年生の思いを受け取ることができていなかったからではないか。6年生の思いを先に見せると、それに対して思いが広がる。だから、「ありがとう」という気持ちが生まれ、言葉が出てくる。
- ・ 自作資料を作りあげたことはすばらしい。しかしながら、資料全体がもやとして終わってしまっているため、おちを作ってもよかったのではないか。
- ・ 繰り返し発問については、子供の意見を聴き、いろんな価値を表出させ、その価値が更新されていくために使うとよい。
- ・ 資料の提示の仕方や児童の発言力、一人一人の意見をていねいに扱っているところなど、教師の道徳の授業に対する力量の高さを感じた。
- ・ 役割演技については、それをやるのが目的になっておらず、手立てとして行っていたのでよかった。



【研究協議会】



【Xチャートを使った授業分析】

